

社会福祉法人 梓友会
平成30年度 法人本部
事業報告

社会福祉法人 梓友会

社会福祉法人梓友会 法人本部 平成 30 年度 事業報告

1. 理事会及び評議員会開催状況並びに承認事項

平成 30 年 4 月 20 日 第 30-1 回理事会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事 6 名、監事 1 名

承認事項：・企業主導型保育事業みくら保育園 平成 29 年度積立資産の計上について

平成 30 年 6 月 1 日 第 30-2 回理事会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事 6 名、監事 1 名

承認事項：・平成 29 年度事業報告（全 7 拠点）
・平成 29 年度決算報告及び監事監査報告
・給与規程の一部改訂
・定時評議員会の招集事項
・みくら保育園運営規程の一部改定
・定款変更 エクレシア南伊豆基本財産の追加

平成 30 年 6 月 21 日 平成 30 年度 定時評議員会

開催場所：下田東急ホテル

出席：評議員 6 名、監事 2 名、理事 2 名（川島理事長、高橋理事、江渡理事）

承認事項：・平成 29 年度事業報告（全 7 拠点）
・平成 29 年度決算報告及び監事監査報告
・定款変更 エクレシア南伊豆基本財産の追加

平成 30 年 12 月 4 日 第 30-3 回理事会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事 6 名、監事 2 名

承認事項：・平成 30 年度第一次補正予算
・経理規程の一部改訂
・デイサービスセンターエクレシア南伊豆運営規程の一部改訂
・小規模多機能型居宅介護みくらの里運営規程の一部改訂
・理事長および業務執行理事の職務執行状況

平成 31 年 3 月 13 日 第 30-4 回理事会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事 5 名、監事 1 名

承認事項：・就業規則の一部改訂

平成 31 年 3 月 27 日 第 30-5 回理事会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事 6 名、監事 2 名

承認事項：
・平成 30 年度最終補正予算
・平成 31 年度事業計画
・平成 31 年度当初予算
・理事長の職務執行状況の報告

2. ISO の推進

8～1 月 内部監査計画に基づき内部監査を実施

1/30～2/1 第 5 回更新審査兼変更審査（審査員：日本検査社-11 長谷部・津島・関氏）

3. 施設長会議

毎月上旬に開催（年間 12 回、四半期に 1 回課長補佐以上が出席）

議題 数値目標達成状況・運営状況報告（職員配置状況、利用者状況等）、評価・不適合報告、マネジメントレビュー指示事項対応状況報告、部門目標達成状況報告他
マネジメントレビューの実施（H30/1/17）

4. 経営調整会議

毎月上旬に開催（年間 12 回）

議題 月次予算実績対比表の報告と分析（クロスボーダー鈴木先生同席）

5. 労使協議会の実施

5/7 第 1 回労使協議会 平成 30 年度夏季一時金、処遇改善交付加算金

10/31 第 2 回労使協議会 平成 30 年度冬季一時金、処遇改善交付加算金

2/28 第 3 回労使協議会 平成 31 年度定期昇給、平成 31 年度一時金

6. 福祉関係団体の各種セミナー参加

全国社会福祉施設経営者協議会、日本経営者団体連盟・社会福祉懇談会研修委員会、
全国社会福祉協議会、全国老人福祉施設協議会、東京経営者協会・新進経営者会、
日本介護経営学会、日本老年社会学会、つしま医療福祉研究財団

7. 静岡県社会福祉法人経営者協議会 東部地区経営協 事務局の運営

7/11 総会・合同研修会

演 題：「社会福祉法人制度の今後のあり方」

講 師：独立行政法人 福祉医療機構 経営サポートセンター

シニアリサーチャー 千葉 正展 氏

会 場：ホテル沼津キャッスル

参加者：137名

3/5 静岡県福祉職合同入職式

会 場：ホテル沼津キャッスル

参加者：東部地区の福祉職新規採用者（新卒者）41名

3/6 事務研修会

演 題：「外国人介護人材の現状、取組について」

講 師：社会福祉法人聖隷福祉事業団 常務執行役員

人事企画担当・人事企画部長 鎌田 裕子 氏

会 場：プラザヴェルデ

参加者：48名

社会福祉法人梓友会法人本部
平成30年度 事業報告

平成30年度 事業報告	進捗状況
<p>1. 人材確保・定着・育成に向けた取り組みの実施</p> <p>(1) 情報戦略の見直しと活用</p>	<p>・従来からの広報誌、ホームページに加えて、SNS（Twitter、Facebook、アメブロ）を活用し、多世代への情報提供を実施した。</p> <p>また、移住希望者等への情報発信ツールとしてフリーペーパーへの広告掲載や伊豆半島全域に配布される新聞折り込み広告に求人情報を掲載するなど、様々なチャンネルへ求人情報等を発信し、法人の取り組みの周知と採用活動を展開した。</p>
<p>(2) 介護職員実務者研修の開催</p>	<p>・福祉系専門学校とのコラボにより、法人職員および圏域の介護福祉士を目指す方々を対象に「介護職員実務者研修 通信講座」を開催し、20名（うち、法人職員16名）が受講した。</p>
<p>(3) 国際交流を活かした人的連携</p>	<p>・30周年記念事業の一環として、台湾の医療系大学、並びに福祉施設職員等を対象にした「日台福祉人材交流研修」を企画し4/25～27の台中・台南・高雄の各大学でのプレゼンを行った。</p> <p>その結果、9/4～10において3名の研修生を迎え、日本の文化、高齢者ケアへの理解を深めることを目的し、エクレシア南伊豆の視察や協力医療機関の見学等を行った。</p>
<p>2. 社会福祉法人制度改革に対応した経営</p> <p>(1) 公共性・公益性の担保</p>	<p>・全国初の自治体間連携特養として、エクレシア南伊豆が3月に開設したことにより、杉並区および南伊豆町と連携し、各種イベントを開催した。</p> <p>また、法人創立30周年記念事業として、記念誌の発行、記念式典の開催を行った。</p>
<p>(2) 内部統制の充実</p>	<p>・各施設においては、施設内研修等などを通じてコンプライアンスにかかわる周知を行った。</p> <p>また、法人本部では、会計事務所（イワサキ会計）による月次監査、年間を通して会計監査人による監査、および外部コンサルによる施設事務の定期巡回を実施し、内部統制の強化に努めた。</p>
<p>(3) 法人マネジメントの徹底</p>	<p>・毎月1回、施設長会議・経営調整会議を開催し、各拠点の計数管理及び評価・不適合項目について管理を実施した。あわせて、年間スケジュールに基づいた、内部監査とマネジメントレビューを行いISO9001:2015による品質マネジメントシステムの管理・徹底を図った。</p> <p>特にISOではJICQAによる第5回更新審査兼変更審査（1月）にて、エクレシア南伊豆を含めた登録が維持されている。</p> <p>また、外部監査では新たに会計監査人による監査を受け、経営の透明性を担保している。</p>

<p>3.法人財務強化についての取組み</p> <p>(1) 各拠点施設の適正な数値目標管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 既存施設の数値目標を設定し、月次施設長会議にて進捗管理を行った。 また、当該年度においてはエクレスシア南伊豆の新規開設があったため、本部主導で施設との連携を行い、特養の早期満床に向けた取り組みを進めた。その結果、平成 31 年 2 月での満床を実現することが出来た。
<p>(3) 全職員による経費削減の共通理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 昨年に引き続き、高額支出（10 万円以上）のデータを毎月、法人本部から各施設に開示した。また、各施設においては、水道光熱費の前年対比データを職員会議等で開示・管理すること、また、物品購入において削減アイテムを抽出し法人全体で経費削減を推進した。

平成30年度 教育研修実績報告

H31.4.17

	内 容	詳 細
新 任 職 員 研 修	① 新任職員オリエンテーション	3月11日～12日 (11期生3名) *内定者4名中1名欠席(後日実施)
	② 新任職員技術研修	4月1日～4日・12日(11期生4名)
	③ OJT教育	各所属施設にて (4名)
	④ 10期生フォローアップ研修Ⅰ	5月25日 (8名)
	10期生フォローアップ研修Ⅱ	8月21日・22日 (6名)
	10期生フォローアップ研修Ⅲ	11月30日 (6名)
9期生フォローアップ研修(2年目研修)	11月29日 (2名)	
⑤ スキルチェック	各施設にて	
⑤ 法人オリエンテーション	第1回 5月16日(11名) 第2回 6月19日(9名) 第3回 10月17日(9名) 第4回 12月18日(14名)	
内 部 研 修 等	① 施設内研修(職員対象)	
	・施設企画1「平成30年度基本方針・法令遵守等」	梓の里 5月11日
	「平成30年度基本方針・サービス基本方針」	みなとの園 5月23日
	「職業倫理」「介護報酬改定」「パワハラについて」	〃
	「平成30年度基本方針・事業計画について」	太陽の里 4月27日
	「法令遵守」「介護報酬の改定について」	〃
	「平成30年度基本方針について」「法令遵守」	みくらの里 5月24日
	「施設サービス方針・倫理・法令遵守」	エクレシア 4月18日
	・施設企画2「介護における安全確保とリスクマネジメント」	梓の里 6月6日
	「感染症・食中毒予防」「事故発生・身体拘束・	みなとの園 6月25日
	防止について」	〃
	「感染症・食中毒予防」「褥瘡ケアについて」	太陽の里 5月25日
	「認知症ケアについて～ミッケルアート」	みくらの里 6月26日
	「認知症ケアについて～ミッケルアート」	エクレシア 6月26日
	・施設企画3「解剖生理と病態生理」	梓の里 8月3日
「口腔内の衛生について」	みなとの園 7月12日	
「事故防止、身体拘束の予防」	太陽の里 7月23日	
「社会福祉施設における防犯対策について」	〃	

	<p>「食中毒予防・感染症予防」「皮膚ケアについて」 「感染症勉強会」</p> <p>・本部企画1「コーチング研修」 *4施設合同実施 講師：株式会社アイプラス 取締役教育企画部長 中村 桂子 氏</p> <p>・本部企画2「合同発表会」 ※5施設合同実施</p>	<p>みくらの里 7月25日 エクレシア 11月 6日</p> <p>梓 の 里 10月29日(月) みなとの園 //</p> <p>太 陽 の 里 //</p> <p>みくらの里 //</p> <p>エクレシア南伊豆 //</p> <p>梓 の 里 3月27日(水) みなとの園 //</p> <p>太 陽 の 里 //</p> <p>みくらの里 //</p> <p>エクレシア南伊豆 //</p>
	② 各施設及び各部署での勉強会	各施設・各部署にて実施
	③ 育成担当者研修	8月22日(水) 各施設 8名
	④ 介護福祉士受験対策講座による資格取得の支援	模 試：11月10日(土) 受講生： 10名
	⑤ 内定者フォローアップ研修	12月15日(土) (平成31年新卒入職予定者3名) *研修実施時点での内定者3名
	訪問介護員研修(静岡県委託事業)	日 程：平成31年1月26日・27日 2月9日(3日間) 受講生：14名受講中12名修了
	介護実務者研修(協力事業)	日 程：平成30年6月12日(火)～ 11月22日(木) 受講生：20名 協力校：専門学校ユマニテク医療福祉大学校
地 域 福 祉 活 動	出張勉強会(学校訪問)	5月31日 稲梓中学校3年(18名) 6月28日 下田中学校1年(82名) 9月 3日 稲生沢中学校2年(36名) 10月9日 稲梓中学校2年(13名) 10月15日 下田東中学校3年(26名) 12月12日 白浜小学校1・2年(25名)

他	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の魅力発見セミナー（学校訪問） 静岡県社会福祉人材センターより依頼 	6月15日 南伊豆中学校2年（53名） 7月19日 浜崎小学校5年（12名） 7月19日 大賀茂小学校4年（8名） 7月20日 河津西小学校5年（9名）
	<ul style="list-style-type: none"> ・就職ガイダンス 	12月18日下田高校南伊豆分校（2名）

企業主導型保育事業みくら保育園

平成30年度 事業報告

平成30年度事業計画	進捗状況
<p>1.社会福祉法人制度改革に対応した経営</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の公益的な取り組みとして、子育て支援にも積極的に参画し、地域の保育課題の解決と職員の勤務状況にあった保育サービスを柔軟に提供することにより、女性の活躍を後押しする。 小規模保育園の良さを発揮し、「こだわりの園外保育」「社会性を育む異年齢保育と多世代交流」「お子様のオリジナルの保育計画」に取り組む。 <p>2.人材確保・定着・育成に向けた取り組みの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規事業のエクレスシア南伊豆の創設にあたり、サービス業を中心とした人手不足の状況がある。その中で人材確保をしていくため、「この保育園に預けたいから働きたい」と言われるような充実した保育サービス実現に努める。 優秀な人材の定着につながり、育休中の職員の職場復帰にも貢献できる保育サービスを継続的に推進する。 <p>3.各拠点施設の経営維持と財務強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年4月に成立した改正子ども・子育て支援法により「企業主導型保育事業」の助成制度を活用し、保育事業の安定的な経営を維持し、職員にも利用しやすい保育サービスを実施する。 	<p>平成29年4月1日より企業主導型保育事業を開始。開設2年目の当初の利用者は12名でスタート。平成31年3月末の利用者は17名となる。職員の勤務状況に合わせた保育サービスを提供し、子育て世代の就労に寄与することができた。また、次年度から地域枠の受入れを開始することになり、対象園児のならし保育を提供した。</p> <p>併設している小規模多機能みくらの里との多世代交流や、園外保育を積極的に実施した。</p> <p>正職員や週30時間以上勤務の非常勤職員の子供の保育園利用料については、福利厚生の一環として無料とし、子育て世代の負担減少に寄与した。</p> <p>みくら保育園の利用者17名のうち、育児休業から職場復帰したことによる利用者数は2名となった。</p> <p>企業主導型保育事業の助成制度に基づき、適正な保育事業の運営をおこない、児童育成協会による実地監査や、静岡県認可外保育所の実地指導において、問題となる事項はなかった。</p>

介護老人福祉施設 梓の里

平成 30 年度 事業報告

運 営 目 標	目標実現のための具体的方法							
1. 人材確保定着 (1) 職場環境改善 ・労働環境改善 ・就労多様化/ 相互応援	×介護職常勤換算員数が 2018/7:35.7→2019/3:32.5→2019/4:実質 31 と急減。							
		施設FT	施設 PT	補助	デイFT	他FT	合計	
	入職	4 (1)	3	2		1 (1)	10(2)	() 2019/3
	転入等		1		1		2	
	退職	1 《2》	1	2			4	慶事, 転職, 体調
転出等	3			1 《1》		4	《》 2019/4	
	一方、高いご利用者需要と収支目標(法人全体の 46.6%)により均衡調整が困難。 結果、高ストレス者(2018/11 ストレスチェック)が前年度 7 名→12 名へと状況が悪化した。 ○ ・介護補助職 2 名を採用、内1名を介護職(勤務制限付き)へ転換。 ・デイ職員から施設夜間帯勤務への転換、訪問常勤職員のデイ職員への転換。 ・施設職員のデイ送迎/入浴支援、管理事務職員の栄養/相談業務支援他実施。							
(2) 人材育成	○手順書に沿った職員育成 →新規入職4名に対して実施、夜勤開始の判断資料とした。 ○高齢者福祉研究大会参加 →入職 3 年目デイ職員が若年身障者受入の事例発表実施 ○実践者研修参加 →参加職員 5 名全員修了、内 1 名が介護福祉士合格 *下期前半は採用育成の複合効果により人員が充足し、結果として、約4ヶ月間(7/3～10/28)、重大事故発生がなく、年間の重大事故件数も前年 9 件から5件へと減少した。							
(3) 先進機器導入	○年度末、全ベッド 99 台の内 90 台に高機能マット導入実施(センサー付 20,褥瘡対応 20 他)。							
2. 制度改革対応								
(1) 地域貢献	○ ・5/18,11/20 近隣向け公開講座、 ・7/31 児童生徒夏季学習支援場所提供 ・8 月 中学生サマーボランティア受入、・9/20,10/26,11/1 近隣小中学校生施設訪問 ・6/20 河津町ケアマネ会議出席、 ・8/30 社協主催社福連携協議会参加							
(2) 防災機能強化	○7/28 台風到来避難受入準備、11/5 総合訓練にて体制開示、3/8 避難所看板設置							
(3) 安全運転推進	○推進事業所指定を受け、警察課長講師の研修他事業取組、無事故事業所表彰受領。							
3. 財務強化								
(1) 収益貢献	○30 年度資金収支差額 6,600 万円 法人収支プラス差額=14,150 万円の内 46.6%を創出 ・稼働率前年比: 特養 98.1→98.3%、ST94.1→93.9%、デイ 23.9→25.3 人/営業日							
(2) 持続性強化	○5/17 高圧受電設備改修(210.6 万円)、6/14 屋上建屋防水処理(66.9 万円)他実施 ○研修等予防措置により館内での感染症発症・流布なく年度終結。							

介護老人福祉施設みなとの園 平成 30 年度 事業報告

平成 30 年度 事業計画	進捗状況
1.人材確保・定着・育成に向けた取り組みの実施 (1) 職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場環境改善のため、看護・衛生委員が中心となり「パワーハラスメント」に関するアンケート調査を全職員に対し実施した。調査結果を衛生委員会で対応策等を産業医の医師より助言をいただき検討した。また、その結果を施設内研修で報告し、職場環境の改善に努めた。
(2) 施設独自の職員採用の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人の「職員紹介キャンペーン」を毎月の職員会議等で説明し職員紹介の取り組みを実施した。結果今年度は職員より 3 名の紹介があり採用へとつながった。ただし、施設独自の募集パンフレットの作成等は、職員の異動等により実施できなかったため次年度へ継続して実施していきたい。
(3) IT やロボット技術の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特養では「眠りスキャン」の導入により、入居者の寝返りや心拍などがパソコン上で測定でき体調の変化が把握しやすくなった。それにより夜勤職員の業務負担の軽減にも繋がった。 デイサービスでは「Pepper」君を活用し通所サービスの向上に努めたが Pepper 君の機能が高く使え切れなかったのが現状であった。ただし、行事やレクリエーションではスタッフをサポートし職員の業務負担軽減に繋がった。
2.社会福祉法人制度改革に対応した経営 (1) コンプライアンス強化への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 30 年 5 月の施設内研修で今年度の報酬改定、基準改正について特養、短期、通所、訪問の事業別に分けて説明し介護保険制度について理解を深めた。
(2) 社会貢献・地域貢献活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症カフェ「カフェみなと」は南伊豆町地域包括支援センターとの協力体制を強化し毎月実施した。 デイサービスでは地域のボランティア団体（日本舞踊、阿波踊り、児童生徒等）のご協力をいただき通所サービスの向上に努めた。 配食サービスでは配食「お弁当」の試食及び管理栄養士による研修会を各地区の民生委員、ケアマネ、役場担当者をお招きし、平成 30 年 6 月に開催し大変好評を得た。
3.法人財務強化についての取り組み (1) 予算・数値目標の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ サービス事業ごとに稼働目標を設定し実績向上に努めたが特養を除きその目標に達しなかった。特に通所と短期は稼働率の落ちこみが激しく法人、他施設に多大なるご迷惑をおかけした。理由としては、通所は新規利用者の獲得が目標どおりいかなかった。短期は平成 31 年 1 月のインフルエンザ発症により利用制限をしたためそれ以降稼働率低下が続いてしまった。
(2) 介護報酬の適正な算定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適正な加算の算定を行うため、報酬請求事務担当者が作成する加算算定根拠資料を毎月確認し誤請求がないか検証した。 また、30 年度新たに創設された「褥瘡マネジメント加算」を算定するため、看護部門等と協議を行い次年度の取得に向けて算定要件、様式等を確認した。

介護老人福祉施設 太陽の里 平成30年度 事業報告

事業計画	進捗状況
<p>1. 人材確保・定着・育成に向けた取り組みの実施</p> <p>(1) 質・量の両面からの人材を確保</p> <p>(2) 職員の意識改革や働き方改革の推進</p> <p>(3) 将来が見えるキャリア教育研修体制の整備</p> <p>2. 社会福祉法人制度改革に対応した経営</p> <p>(1) 事業運営の透明性を図る</p> <p>(2) 地域における公益的取り組みを実施する責務を果たす</p> <p>(3) 複雑かつ困難な福祉ニーズに対応させるべく公益な試みを実行に移す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職の安定的配置が介護の質に影響すると考え、介護、通所の部門目標として、介護職採用のためのポスターをコンビニ等、15ヶ所に掲示するも採用までは至らなかった。しかし、知識・技術においては、研修会参加や日々研鑽を積み重ねる事で向上され、特養においては介護職 17 名の内、今年度 3 名の合格者を含め 15 名が介護福祉士を取得している。 ・有給休暇取得においては、計画的に実行したことにより業務への大きな影響もなく取得できた。この事が職員のリフレッシュとなりいきいきと働ける職場環境となっている。 ・職員面接においては、定期的、また随時に実施し思いを傾聴し対応してきた事が解決の糸口となっている。面接後は笑顔で業務に就いている事が確認できる。 ・ユニットリーダーは部下指導のポイント講座やチーム力向上講座等の外部研修を受講し、指導的立場として介護職指導や助言を行った事で、会議等でスタッフは積極的に意見提案できるまでになっている。 ・広報誌においては計画通りの実行となる。また 10 月に太陽の里まつり、11 月にご家族交流会の実施、そして、法人設立 30 周年記念誌への思いを寄せていただく等、地域への情報発信を行う事で施設は地域の社会資源であることの位置づけとなっている。 ・施設が地域行事を受け入れ、地域住民と交流を図り、職員は地域貢献として認知症予防のため地域住民参加の「遊んで学ぼう」会を実施するとともに、事業所連絡会の開催においては、地域の福祉・介護ニーズの情報交換を行い、在宅サービスや入居利用につながる、地域の安心となっている。また、西伊豆町福祉課および西伊豆町地域包括支援センターと連携を図り、徘徊等、ご家族や地域の対応困難なご利用者を積極的に受け入れる姿勢が事業所や地域の評価となっている。 ・居宅ケアマネやかかりつけ医との連携の中で、在宅での介護力の問題から緩和ケアの必要なご利用者 1 名の看取り介護を実施しご家族の安心となっているとともに、スタッフの知識や技術の習得にもなっている。今後も、かかりつけ医と連携し独居や老老介護者の看取り介護の受け入れを積極的に行っていく。 経管栄養のご利用者対応はなかったが、看取り介護対応に伴い、喀痰吸引のご利用者は増大しているとともに、医療ニーズのあるご利用者の入居が多くなっている背景を踏まえ、1 名が第二号研修を受講している。今後も計画的に行いスタッフ全員の第二号研修修了者を目指したい。

<p>3. 法人財務強化についての取り組み</p> <p>(1) 安定的経営に結びつくような数値管理の実行</p> <p>(2) 適正かつ公正な予算管理と支出管理の実行</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 特養では1年間で15名の死亡退所があった中で99.0%。短期は年間累計新規契約者が37名。受け入れエリアも三浦（岩地・石部・雲見）及び安良里地区まで拡大している中で100.3%と目標数値を達成する。この事は中伊豆方面の病院や各事業所への営業活動を行う中で適切なベットコントロールを行った結果と見て取れる。 通所においては最低稼働(4月)が64.9%（409名）19名/日、最高稼働（10月）86.7%（572名）26名/日。数値目標がーか月450名（450名×12ヶ月=5,400名）21名/日であって、ーか月506名（506名×12ヶ月=6,079名）23名/日と大きく目標数値を上回った。この事は各事業所への営業活動や認知症ご利用者を積極的に受け入れた事が評価となり、稼働に結びついた結果と考える。今後も継続して営業活動を行っていき、目標数値を目指したい。 • 経費削減については、25年度から部門目標に設定した事もありスタッフに意識づけされている。施設内巡回時は、必要でない場所の電気のつけっぱなしが殆どないほど、スタッフの経費削減への意識は高い。電気使用量は削減しているが、料金単価の変動により電気料金はプラスとなっている。スタッフの意識づけの持続の為、平成31年度も経費削減を事務の部門目標に設定する。 <p>電気使用料</p> <table border="0"> <tr><td>30年度</td><td>206,677kwh</td></tr> <tr><td>29年度</td><td>221,038kwh</td></tr> <tr><td>28年度</td><td>224,962kwh</td></tr> </table> <p>電気金額</p> <table border="0"> <tr><td>30年度</td><td>4,405,823円</td></tr> <tr><td>29年度</td><td>4,206,439円</td></tr> <tr><td>28年度</td><td>3,925,051円</td></tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> • 消耗物品については、継続して在庫表を作成し、週1回の在庫確認を行った事により整理整頓ができ、必要以上の物品を抱えることもなく、また、適正な使用方法も都度見直しをする中で適正管理を目指している。それぞれの担当で検討を行っている。 	30年度	206,677kwh	29年度	221,038kwh	28年度	224,962kwh	30年度	4,405,823円	29年度	4,206,439円	28年度	3,925,051円
30年度	206,677kwh												
29年度	221,038kwh												
28年度	224,962kwh												
30年度	4,405,823円												
29年度	4,206,439円												
28年度	3,925,051円												

介護老人福祉施設みくらの里
平成30年度 事業報告

運 営 目 標	進 捗 状 況
<p>1. 人材確保・定着・育成に向けた取り組みの実施 (1) 人材育成の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 特養や短期入所における介護サービスの質を担保するために、以下の各種研修の受講および受入れを行った。 ① ユニットリーダー研修施設として研修生の受入れ 8名の受講生を受入れ、研修開催 ② ユニットリーダー研修 2名の介護職員が受講し、研修終了 ③ 医療的行為への対応として、医行為研修 4名の介護職員が受講し、資格取得
<p>(2) ICT機器や介護ロボット等の効果の検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 見守り支援ロボットの一つである「眠りSCAN」を5台導入し、15名のご利用者に対してデータ蓄積および検証を行い、ケアの質の向上につなげる取り組みを行った。 • ご利用者に安全・安心な入浴の機会の提供および介護職員の業務省力化などの観点から、老朽化した3F特浴を介護リフト付き個浴に改修し、改善の取組みを行った。
<p>2. 社会福祉法人制度改革に対応した経営 地域貢献の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 今年度は法人創立30周年事業を実施するために、みくらの里まつりは実施しなかったが、7月に納涼祭、2月には施設入居者様のご家族を対象にした『家族交流会』を実施し、多くの方々にご参加いただいた。 <p style="text-align: center;">7月7日 納涼祭『ほのぼの七夕会』 2月22日 家族交流会『マグロ解体ショー』</p>
<p>3. 法人財務強化についての取組み (1) 数値目標の管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 各事業ごとに数値目標を設定し、月次での目標管理を行うことにより、稼働率の向上に努めた。また、本年度は感染症による受入れ制限などはなかった。
<p>(2) 全職員による経費節減</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 耐用年数を超えた設備の計画的な入替え（給湯器、特殊浴槽）を実施することにより、介護サービスに支障が無いよう、各種の改善に努めた。

**介護老人福祉施設エクレシア南伊豆
平成30年度 事業報告**

平成30年度 事業計画	進 捗 状 況
1. 人材確保・定着・育成に向けた取り組みの実施 (1) 職員研修制度の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4/2～6 新任職員施設別研修 ・ 4/18 施設サービス方針、倫理、法令遵守研修 ・ 6/15 紙パッドの使用方法についての勉強会 ・ 6/26 ミッケルアート研修 ・ 7/10 口腔ケア研修 ・ 7/17 食中毒予防、感染症対策研修 ・ 8/7 ユニットケア研修 ・ 9/27 看取り介護勉強会 ・ 10/29 コーチングの基本 ・ 11/6 身体拘束廃止、虐待防止研修 感染症勉強会 ・ 11/19 ちょうじゅフォローアップ研修 ・ 3/28 事故防止、身体拘束廃止、虐待防止研修
(2) ICT やロボット技術の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットを活用して双方向のコミュニケーションを構築し、運用を図った。スカイプ利用回数 9 回 ・ ヒト型ロボット『Pepper』などを活用し、認知症の悪化予防活動を推進した。デイサービスでは、月曜日から金曜日までのサービス提供時間で使用した。 ・ ちょうじゅシステム（介護記録等の電子化）を導入し、介護職員等の業務効率化や負担軽減を図った。効果の検証を行う委員会を定期的に関催できなかったため、次年度継続課題とする。
2. 社会福祉法人制度改革に対応した経営 (1) コンプライアンス強化の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4/18 施設サービス方針、倫理、法令遵守研修 ・ 3/28 事故防止、身体拘束廃止、虐待防止研修
(2) 積極的な PR 活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 杉並区役所などでの PR 活動 5/8～10、6/4～5、8/8～9、8/29～31、11/5～6 ・ 11/3～4 すぎなみフェスタ ・ 情報発信のツールとして新たにパンフレットを作成した。 ・ エクレシアの行事をブログに 71 回アップし、情報を発信した。
(3) 杉並区の入居者との交流事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10/21 高円寺阿波踊り実施 フェスタ南伊豆に参加した。 ・ 10/27 日本フィルハーモニー交響楽団出張コンサート開催

平成30年度 事業計画	進 捗 状 況
3.法人財務強化についての 取り組み (1)各事業の計画的な稼働 率管理	<ul style="list-style-type: none"> • 本年度は特養、短期入所と通所介護サービスを提供した。 平均稼働率は、次のとおりとなった。 特養：71.3% 短期：10.6% 通所：40.7% ケアプランセンターについては、次年度からサービス開始予定。
(2)経費節減の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> • 事務費、事業費を実績ベースでデータ化し、次年度に向けて適正値を 目標設定することができた。 • 8月、10月、1月、3月のリーダー職員会議で実績数値を報告した。

小規模多機能型居宅介護 みくらの里
平成30年度 事業報告

平成30年度 事業計画	進捗状況
1.人材確保・定着・育成 に向けた取り組みの実施	<ul style="list-style-type: none"> • 30年度異動となった職員5名に対し、「小規模多機能の役割」について職場内研修を3/26に行った。 • 他職員については、前年度同研修を実施済。小規模多機能を理解した上で業務遂行。小規模多機能独自のサービスの提案・実践できるスキルが向上し、ご利用者・ご家族からの満足度も向上した。次年度、最終的な理解度を評価するため、自分たちの伝えたい「小規模多機能型みくらの里のPRポイント」をリーフレットとして作成する予定。 • 8/25～ミッケルアート（認知症プログラム）を導入。認知症ケアだけでなく、利用者一人一人を見る（知る）機会も多くなった。2月には、職員1名が回想療法士1級の資格を取得。 • 職業体験、インターンシップの受入れも多く、8/16高3生1名、10/26中1生2名、11/7・8中3生2名、11/14・16高2生2名、12/6・7高1生1名の計8名の受入れを行い、どの生徒からも介護の仕事の楽しさを知ったとコメントいただいた。
2. 社会福祉法人制度改革 に対応した経営	<ul style="list-style-type: none"> • 任期満了に伴う運営推進委員の入れ替わりがあったが、区長・民生委員・地域ボランティア団体、地域有識者、家族、市役所職員にお願いし、6/27、9/20、10/23、11/27、1/31、2/26の計6回運営推進会議を開催。情報共有を中心に、施設見学・地域とのかわり方についても協議し、事業所評価も行った。 • 地域の方との交流活動でもある「健康プラザ」については、業務の関係で日程調整ができず今年度開催なしとなった。次年度は、「健康プラザ」再開、「認知症カフェ」「家族会」等集い事業の実施予定。 • ケアプランセンターみくらと共催で在宅介護の家族にとって介護しやすい環境づくりを目的に、7/21、11/9、10、3/29の3回「家族交流会」を実施。社会資源の有効活用や、介護知識等について情報発信した。 • 認知症キャラバンメイト活動では、6月と12月に包括支援センターと共に、認知症サポーター養成講座を行った。
3.法人財務強化について の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> • 看護職員の退職に伴い、9月より看護職員配置加算の算定がなくなり、700単位/人（月200,000円程度）減収となった。 • 登録者は平均27名、Max29名の月も4回あり安定した登録数の維持ができたが、入院される方の長期化と施設入所される方が多く、新規の獲得が間に合わず登録26名となった月もあった。 （終了者10名中：7名が施設入所・リフト、死亡2名、長期入院1名） *施設入所は、みくら3名、エクレシア1名、梓の里1名、みなと2名 • 利用者数については、通い：12.7名/日（+07名）利用率92.8%（+8.6） 稼働率70.8%（+4.1%）、訪問：4.1/日（+0.5）利用率40.5%（+5.4） 稼働率14.3%（+2.0%）、宿泊：4.5/日（+0.1）利用率54.9%（+4.0） 稼働率90.2%（+3.0%）と微増。